

# 小中一貫教育

小・中の  
学校が1つに

## 「義務教育学校」の 設置を検討

現在、月形町では「義務教育学校」の設置について検討を進めています。

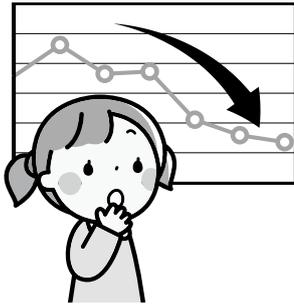
### 1 「義務教育学校」とは

「義務教育学校」とは、これまでの小学校6年間と中学校3年間を合わせた9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類です。小中一貫教育の10年以上にわたる取組実績の積み上げにより、顕著な成果が得られたことから制度化され、平成28年4月より設置が可能となりました。



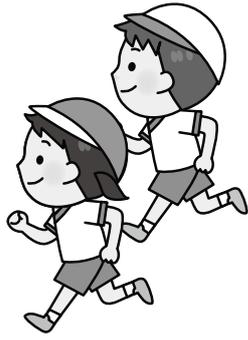
### 2 なぜ、「義務教育学校」の設置を検討しているの？

さまざまな理由はありますが、最大の要因は、やはり人口減少と言わざるを得ません。令和元年度策定の月形町人口ビジョン（改訂版）で皆さんもご承知のとおり、将来の本町の総人口は約20年毎におおむね9000人ずつ減少し、年少人口（0～14才）に至っては更に減少が著しく、約20年毎におおむね半減していくという厳しい推計となっています。



これは遠い将来のことではなく、数年以内に児童数一桁の学年が複数発生するという状況にあり、今後は、複式学級の設置の可能性も否定できません。

このような児童生徒数の減少は、さまざまな学校活動に影響を与えます。特にスポーツや文化活動、運動会や学校祭などの学校行事、一定程度の集団規模を必要とする活動は、種目の限定やルールの変更など、その活動に一定の制約を受けることとなります。以前の小学校間や中学校間の学校統合が、小学校と中学校の間でも必要になっている状況と言えるかもしれません。



その他、昭和20年代前半に導入された小学校・中学校6・3制は既に70年以上を経過し、「中一ギャップ」と言われるようにさまざまな課題が顕在化し、その課題解決と併せて「生きる力」「英語教育」

「プログラミング的思考」など、教育の高度化、充実、質の向上なども求められています。



学校施設においては、昭和51年に月形中学校、昭和56年に月形小学校が建設され、いずれも築40年以上を経過し、老朽化とともに、今後、大規模な改修など施設整備の在り方を検討する時期にきています。

また、まち全体の計画として、月形小学校跡地に地域拠点施設を整備する計画も検討されています。

このようなことを総合的に踏まえ、義務教育学校の設置検討を開始しています。



### 3 メリット・デメリットは

義務教育学校のメリットについてはさまざまありますが、主に中一ギャップの解消、異学年交流や小学校からの部活動への参加、柔軟なカリキュラムの編成、9年間を見通した指導・学力向上、教職員の部活動顧問配置の工夫や校務効率化、PTA組織の一本化や家庭・地域との連携、小中の円滑な接続による特別支援教育の充実、施設維持管理費の縮減（施設一体型の場合）などが挙げられます。



また、デメリットについては、9年間同じ学校であることによる人間関係の固定化、小学校高学年におけるリーダーシップの阻害、中学生から小学生への悪影響、中学校教諭の負担増への懸念、校長の職務が過重となる恐れなどが挙げられます。

詳細については、昨年11月に設置しました月形町義務教

育学校設置審議会における審議の経過をホームページに掲載していますのでご覧いただければと思いますが、例えば、「同じ学校であることによる人間関係の固定化」では、「本町では既に小学校と中学校が各1校であり、義務教育学校の設置に伴う新たな問題の発生ということではありません」というように、いずれもメリットがデメリットを大きく上回ると判断しているところです。



#### 4 審議会の答申

前述のとおり、審議会では、昨年11月に教育長からの諮問を受けて本年4月まで、新型コロナの感染が拡大する状況ではありましたが、子どもたちの明るい未来を想像しながら、短期間に6回にわたる建設的な審議が行われました。

そして、本年4月に審議会会長より教育長へ答申をいただいたところであり、主な内容は、次のとおりです。

##### ○義務教育学校設置の可否

設置は必要

##### ○設置場所

既存の月形中学校敷地

##### ○設置時期

町の財政計画に判断を委ねざるを得ない

・教育的な側面としては、1年でも早い設置を望む

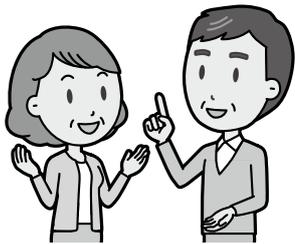
##### ○校舎の整備方法

財政的な見通しが立つのであれば、改築（建て替え）が望ましい

※詳細については、ホームページをご覧ください



▲月形町義務教育学校設置審議会のホームページ



また、審議会の答申では、「大切なことは、『成功か、失敗か』、『良いか、悪いか』など二択の結果だけを捉えるのではなく、（中略）トライ＆エラーを繰り返しながら『良い学校をつくっていかよう』という気構えが、本学校の設置には必要であると感じます。本町における義務教育学校の設置にあたっては、『みんなで新しい学校をつくっていかよう』ということを合言葉に、町民一体となって新しい学校づくりを進めていただきたいと強く願っています。」と締めくくられています。



▲竹田会長から教育長へ答申書が手渡される様子



#### 5 今後について

教育委員会では、審議会からいただいた答申を最大限に尊重し、義務教育学校の設置を進めたいと考えています。また、同学校の設置にあたっては、条例の制定や予算措置が必要であり、議会や町など関係機関との一体的な取り組みも重要となります。



そして、この学校の主人公は子どもたちであり、保護者であり、地域の方々です。学校の先生方とも連携しながら、審議会の答申にあるように「みんなが新しい学校をつくっていかよう」ということを合言葉に、町民一体となって設置に向けた取り組みを進めていくことが大切であると考えています。

具体的な開校時期につきましては、校舎の整備方法や予算措置などの関係もあり流動

的な部分ではありますが、順調にいくと令和9年度の開校を目指し、本年度中に基本構想の策定を進めることとなります。

問合せ先 教育委員会学務係  
TEL 53・3443

